

<スクールアルバム>

特別授業（視覚障がい理解）
視覚障害の方のためのグッズ、歩行介助の基本を体験



喜び広がるリバイバル！<本郷台キリスト教会 60周年セレブレーション>
讃美、ゴスペル、スキットなど、楽しく元気に参加できました！！



アメリカバスケットボール宣教チーム交流会
讃美、証の時間とバスケットボール交流をしました。🏀



YWAM 横浜との交流会(小2~4年生)



お願い・ご報告

- 5月の行事は守られ、祝福されました。皆さまのお祈り、ご協力に感謝いたします。
- 本郷台キリスト教会創立60周年記念セレブレーションへのご協力を心から感謝いたします。
- 昨年12月から小学生の英語を担当して下さったKAさんは、アメリカに帰国しました。Aさんのこれまでの働きに感謝し、これからの祝福を祈りましょう。
- 7月の予定をご確認ください。
7月は、16日(火)で通常授業は終了し、17日(水)~19日(金)は、特別学習期間となります。
17日(水)、18日(木) 小5以上 1泊リトリート
17日(水)、18日(木) 小1~4 特別授業
20日(土) 9時~10時15分 スタッフ・保護者清掃
10時30分~12時 保護者会(テーマ:月井校長による性教育)
22日(月)~8月31日(土) 夏休み
- 夏休み前に個人面談を行います。ご協力をお願いします。

今月のみことば(暗唱聖句)

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」第2コリント5:17
“if anyone is in Christ, he is a new creation; old things have passed away; behold, all things have become new. “ 2 Corinthians 5:17

祈禱課題

1. スクール関係者すべてのご家族の上に主の愛と平和が満ち溢れますように。
2. スタッフ一人ひとりが主からの知恵と愛をいただき喜びをもって指導にあたることができるように。
3. 学校法人の取得のために道が開かれるように。
4. スタッフの研修会が祝福されるように。



のあインターナショナルスクール スクール通信 6月号

2024.Jun. 1

VOI.203

〒247-0024 横浜市栄区野七里一丁目 37-10

TEL:045-891-9982 FAX:045-895-3761

私にとっての「のあ」

小学部担任 脇阪はんな

今年度からスタッフとして加わりました、脇阪はんなです。新年度が始まって2カ月、長いような短いような、不思議な感覚を覚えつつ、生徒たち、保護者の方々、先生方と、このスクールで共に過ごせることに感謝しています。私は小学5年生から高校卒業まで、のあで学びました。関西からの引っ越しに伴って、チャーチスクール(教会を母体とした学校)を探していた両親がスクールの存在を知ったことが入学のきっかけです。

スクールを卒業後、大学で初等教育について学ぶなかで、中高時代も含めた自分のこれまでの学校生活を振り返る機会がありました。社会の授業で年に何度も見学に連れて行ってもらったり、文化祭のために放課後や休みの日にもバンド練習や準備をしたり…。書ききれませんが、たくさん豊かな時間が与えられていたのだと気づかされました。また、一人ひとり個性豊かな友人たちと濃い時間が過ごせたことも、私にとって大切な体験だったことがわかりました。

さらに、生徒だった頃に何気なく聞いていた先生の言葉、聖書の言葉をふと思い出し、じわじわと心に染みることもありました。『イカを食べるな』(分からないことを「まあいいか」とうやむやにせず理解できるまで学ぶ、という意味)、『小さいことに忠実な人は大きいことにも忠実です』『Teaching is Learning』など…。そのうちの一つは、礼拝メッセージの中で聞いた「このスクールはイエスさまの弟子を育てるところなんだよ」という言葉です。高校3年生で、少しずつ卒業が近づいていた頃にもかかわらず、それまで私は「イエスさまの弟子になるために」学んでいるとは考えたことがありませんでした。当時はあまりピンときませんでした。その学びが土台となって、大学生になってから、誰かから強いられてではなく自分自身の願いとして、イエスさまの弟子として神様のために生きていきたいと思うようになりました。

今、スクールで学んでいる生徒たちの様子を通して、『スクールはイエスさまの弟子を育てるところ』という言葉が頭に浮かびます。小学部1~4年クラスの朝のバイブルタイムで、「もしイエスさまに会って、自分の願いを直接お伝えできるとしたら、お願いしたいことはある？」という問いかけがありました。私だったら何だろう…と考えていた時、一人の生徒が「弟子にしてくださいって言う！」と答えました。すでにそのような思いを与えられながらスクールで過ごしているのは、素晴らしいなと思いました。

今年度、のあインターナショナルスクールが20周年を迎えるなかで、一人ひとりが神様によってこのスクールに導かれた大切な存在なのだ実感し、とても感動します。スクールにつながったきっかけも違い、「私にとっての『のあ』」も異なると思いますが、神の家族として一緒に過ごす日々を期待しています。

6月のカレンダー

日	月	火	水
2日 Fさん誕生日	3日 代休	4日	5日 中高 HOPE 礼拝 (1限) 特別授業 (デンマーク体操)
9日	10日 ← 前期中間テスト期間 (中高等部) Yさん誕生日	11日	12日 検尿② 内科検診 (15時30分) Aさん誕生日
16日	17日	18日	19日 休校 スクール開校記念日
23日	24日	25日	26日 小学部・中高 HOPE 礼拝 (1限) 特別授業 (ウクライナ宣教報告会 : F 宣教師)
30日			

- ・ 6月1日(土) 午前、オープンスクール「スクール体験の日」を実施します。一般の小中学校に通う方々に、本校を体験してもらおうと企画しました。本校生徒の皆さんは、登校日とし、通常登校です。保護者の皆さま方におかれましては授業参観日とします。また、12時から、お父さんやお母さんに感謝する日として「ペアレンツデー」を実施します。保護者の皆様は出席をお願いします。下校は、13時30分です。なお、3日(月)は、代休で休校となります。
- ・ 5日(水) 午前中、特別授業としてデンマーク体操を学びます。講師は、IY氏です。ダイヤモンドチャペルに移動して行います。
- ・ 10日(月)～14日(金)は、前期中間テスト週間(中高等部)です。生徒の皆さんは学習した内容をもう一度確認し、テストに臨んでください。ご家庭におかれましては、励ましをお願いします。
- ・ 12日(水)、尿検査②を実施します。①で提出できなかった人は、必ず9時までに忘れずに提出してください。また、内科検診を15時30分から行います。下校は小2、15時15分、小3以上は16時10分になります。
- ・ 13日(木) 午前、歯科検診を行います。登校前に必ず歯磨きを済ませておいてください。
- ・ 19日(水)は、スクール開校記念日で休校です。
- ・ 26日(水) 午前中、中高 HOPE 生は、特別授業として、ダイヤモンドチャペルで行われる F 宣教師によるウクライナ宣教報告会に参加します。
- ・ 28日(金)は、スタッフ研修のため授業は5限まで、下校は全校14時30分です。なお、前日27日(木)に金曜日の6限の授業を実施します。27日(木)の下校は、小2が14時25分、小3以上が15時50分です。ご確認をお願いします。
- ・ 保護者、スタッフ向けバイブルタイムを毎週木曜日に行っています。子ども達が日々恵みを受けている聖書の言葉をご一緒に味わっていきましょう。初めての方も大歓迎です。6日(木)、13日(木)、20日(木)、27日(木)の13時15分～、場所はのあ IS B 教室です。鈴木まで問い合わせください。

木	金	土
		1日 オープンスクール「スクール体験の日」(午前) ペアレンツデー(午後) Tさん誕生日
6日 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	7日 委員会活動(6限)	8日
13日 歯科検診(午前中) 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	14日 クラブ活動(6限)	15日 Sさん誕生日
20日 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	21日 クラブ活動(6限)	22日
27日 クラブ活動(6限)(15時50分下校) 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	28日 5限授業(14時30分下校)	29日



子育て note

「子育て困難期」

父たちよ、自分の子どもたちを怒らせてはいけません(エペソ6章4節)

親が、一番子育ての難しさを経験するのは、子どもがティーンエイジャーになる頃からではないでしょうか。私自身の子育てにおいても、自分たちの子育ては失敗した、と言わざるを得ない時が何度もありました。その頃から、子どもの心は、はっきりと親からの自立に向かうのです。そして、それは良いことなのです。しかしこの時に、親の側の対応を誤ると、後々まで引きずってしまうような、親子関係に大きなダメージを与えてしまう時期でもあります。子どもの心を、親の規制によって、無理に矯正することは不可能です。子どもの心を形成して行くのは、子ども自身だからです。親はその心の形成に関わることはできますが、親の指導によって、その心を形成することはできません。もし子どもが親の言うことをそのまま受け入れ、外見において、親の望むような子どもに成長していったとしても、その子の心は成長していません。自分の心が、無理やりに親によって作られようとしていることを、子どもは知っているからです。たいていの場合、子どもはそれに対して、強い反発や反抗を示します。子どもの心はどこにあるのかを受け入れつつ、そのことの良し悪しを話し合い、分かち合い、必要な支援をしながら、その成長の変化を助けて行くのが、親の役割です。といっても、ことの良し悪しを話し合うことはあまり役に立ちません。子ども自身が、自分の体験の中から、その結論を出していくのです。子どもの出そうとする結論が、親が望んでいる方向に出てくるよう、親は、強制によってではなく、愛情によって接していくのがせいぜいです。この時期、親は、多少の距離を置いて見守りつつ、自分たちのできるだけのことをして、あとは祈りつつ、待ち望むしかありません。親がどのように生きているかが、その時に問われます。彼らにとって、親は最高の参考資料です。その時に、親が、自分にとって魅力のある生き方、また感動する生き方をしているなら、親の生き方に、子どもも同調し、同じ方向に歩んでくれる可能性があります。でも、子どもが反発を生むような生き方、接し方を親がするなら、子どもの心は、むしろ反対方向に振れていきます。また、この子育てが困難な時期において、力があるのは、親の祈りです。神こそが、私たちの子育てを導いてくださる方です。

校長 月井博

